

小学部Aグループ研究

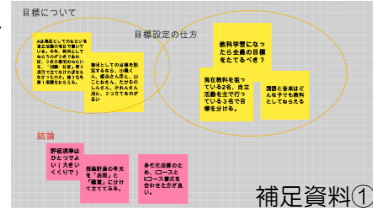
1. 研究グループの概要

- 小学部Ⅱコース（重複障害）在籍児童5名（1年生2名、5年生1名、6年生2名）
- 研究グループは、担任5名＋小学部主事1名で構成

2. 研究経過

(1) 実態把握

- 音楽を教科として取り組んでいる児童A、Bに対し、音楽活動のチェックリスト（※1）に基づき、実態把握に取り組んだ。
他3名については自立活動としてのそれぞれの目標を立て取り組んだ。
- 1学期の反省（目標、単元・題材設定、取り組み方法、評価規準、体制）をKJ法（補足資料①）で行った。反省をまとめ、2学期以降の授業の方向性や目標、評価規準の設定に結び付けた。



(2) 授業実践

はじめに単元の目標、題材設定・それぞれの児童のねらいたいこと全員で確認した。それを踏まえて、器楽（和太鼓）について授業実践を行った。目標を達成するために、授業実践シート（補足資料②）を用いて授業の反省・改善を行った。

3. 研究の成果と課題

授業反省と改善策例 ※授業実践シートより

補足資料②

活動	課題	改善・手だて	結果
題材内容 教師が歌う間鳴らす活動（歌『おおきなたいこ』のドンドン、トントンの部分）	<ul style="list-style-type: none"> 活動のはじめと終わりが分かりにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌を『山の音楽家』に変更。 『山の音楽家』の伴奏をつけて、和太鼓を鳴らしてもらいたい部分は伴奏を止める。 鳴らす場面で太鼓を児童の前に出す、終わったら、太鼓を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏があることで待つ、鳴らす部分のメリハリが分かった。そのため、鳴らしたという実感をもちやすかった。 活動場面を視覚的に伝えられた。活動の終わりがわかりやすかった。
教材教具 バチの他にも身近にある素材（ダングリ、栗など）も使って鳴らした。	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある素材を使って落として鳴らすことは、自分で鳴らしたということを実感することは難しい。 バチの太さや重さが児童にあってなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 鳴らした実感や鳴らした時の振動を感じやすくするため、和太鼓のバチに限らず、様々なバチを用意した。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形や太さ、重さ、長さのバチを用意することで、叩きやすくなり、音の響きや振動を感じやすくなった。 直接手で鳴らすこともあり、音や振動を直接実感することもできた。
指導方法 一人一回のみの活動（歌『おおきなたいこ』を歌っている間のみ）	<ul style="list-style-type: none"> 活動量の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を確保するために、一人で鳴らす時間、複数で鳴らす時間、発表の時間を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 和太鼓に触れる時間が長くなり、鳴らす感覚や振動、響きなど十分に感じる事ができた。 発表の時間を設けたことで、友達の様子にも興味を示していた。

○成果

- 実態差がある中で、器楽（和太鼓）のねらいを達成するために様々なアプローチ（姿勢・鳴らす用具・和太鼓の提示の仕方など）を考え、工夫したことで、以下の様子が見られた。

- バチを持つ手と反対の手を打面に置き、自ら叩いて振動を感じていた。
 - 太鼓の音が聞こえると笑顔になり、音のする方を注目していた。
 - 太鼓を提示されると、自ら手を伸ばして触り興味をもてた。
- など

このような様子から教師の支援を受けながらではあるが、自分たちなりの方法で音を出したり、音に気付いたり、聞いてみようとしたりするなど、ねらいを達成することができた。また、和太鼓は、音の響きや振動を感じやすいなど児童にとってわかりやすく、興味をもつ題材であったと再確認できた。

- 今年度のグループ編成では教科2名、自立活動3名で行ったが、学習指導要領の1段階を読み解くと、児童全員が教科としての目標がたてられるのではないかと考える。

●課題

- 体調不良や受診等のため欠席する児童が多く、5名全員で授業を行うことが難しかった。合唱や合奏など集団での活動を要する音楽の特性上、集団を確保していく必要があり、他の授業とのバランスを取りながら授業変更するなどの配慮が必要であった。
- 1年生から6年生までの幅広い学年で構成されたグループであったため、実態差や経験の差が大きく、生活年齢に合わせていくことの難しさも感じた。

※1加藤博之(2007)「子供の世界をよみよく音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて」内のチェックリストを研究部で特別支援学校学習指導要領小学部の音楽の内容1～3段階に対応させたもの。